

いよいよ運動会

朝の時間、各クラスから運動会の歌が聞こえてきます。

♪ ♪ ぼくらは輝く 太陽のように 燃え上がる希望 カ一杯頑張ろう
ぼくらは白い稲妻だ 突き進む光の矢 雷の音 轟かせ ♪ ♪

この歌には「ゴーゴーゴー」という題名がついています。この運動会の歌は、勇壮で、リズム感があり、「頑張るぞ」「勝つぞ」という気持ちが鼓舞され、伝わってきます。

さて、運動会の意義はどこにあるのでしょうか。分かりやすいことばで言えば、子ども達にとっては、次のようなことでしょう。

①達成感(成し遂げた喜び)を味わう。

始めは出来なかったことが、練習している間に出来るようになります。その経験を通して、やれば出来るんだ、という自信が生まれます。

②協力する大切さを学ぶ。

競技や演技は1人では出来ません。友達と力を合わせ協力することで、上手に演技や競技が出来るようになります。運動会の取り組みを通し、協力する大切さを学びます。

③苦しさに耐え、我慢する心(忍耐力)を養う。

暑い中の練習は大変です。1日に多いときは、練習が3時間、ということもあります。のどがひりひりと渴きます。休憩時間の水のおいしさは格別でしょう。友達と汗まみれになりながら、1つの演技を完成させた喜びは自分の成長を確認できる時です。運動会の取り組みを通し、少々の苦しさや困難にへこたれない強い心が養われます。

④係活動を通し、責任感や奉仕の心を育てる。

運動会では、準備品が揃わないと競技できません。また、競技では出発の合図や審判係が必要です。競技中のBGMや入退場の曲や放送がなければ興ざめです。応援団(応援係)がいないと運動会は盛り上がりません。高学年児童、1人ひとりが色々な係を担い、責任を持って行うことで運動会が立派に運営されます。

今、運動会の主役である子どもたちの側から見てみました。参観者である保護者からすると、わが子の心身の成長に感動するというのでしょうか。以前、お願いした「運動会の反省」に次のような感想が寄せられていました。

※あの幼なく何も出来なかった〇〇が、今こうしてきびきびとした動きで懸命に演技をする姿を見て、私はわが子の成長に思わず涙がこぼれてきました。(以下略)

運動会のもうひとつのねらいは、感動体験を味わう、ことでしょうか。子どもたちは「赤白応援し合い、広げよう、笑顔の輪」のテーマのもと、練習に係活動に頑張ってきました。明日の運動会、大いにご期待下さい。

ソーラン節の練習



組み立て体操の練習



悲しみを見つめる意義

前回の学校だよりで、静岡県藤枝市の女子中学生の自殺事件を取り上げ、生命(いのち)の大切さをお話しました。もっと自然に「心にストーンとおちる話」はないか、と探していると、以前、別の学校で発行した学校便りが目にとまりました。これは、平成18年に福岡県で一家5人が乗った乗用車が飲酒運転の車に追突され、車ごと海に転落し、幼い3人の子どもが命を落とした事件を取り上げたものです。この事件から、命の大切さ、家族愛について言及しました。その元の原稿を一部手直したのですが、紹介します。

新聞(注・平成19年9月頃の山日新聞です)に、福岡市で1年前、交通事故(飲酒運転の車に追突され海に転落)で幼い3人の子どもが亡くなった事件の裁判のことが載っていました。父親の大上哲央さんは法廷で、

「3人はわたしたち夫婦のすべてでした。被告はなぜ、私たちを見捨てて逃げたのか。あの時、海に飛び込んで救助してくれたら1人でも命を救えたのでは、と思うと悔しくてたまらない。」と涙声で訴えていました。

私たちは、このような悲しい事件は、なるべく見たり聞いたりするのを避けよう、という心理が働いてしまいます。それは、悲しみに自分の心まで暗くなるからです。また、感受性の豊かな人は、自分の家族にそのような災いが襲いかかる場面を想像し、いたたまれない気持ちになるからなのでしょう。

確かに今、お茶の間では、お笑い番組やクイズ番組が多く、深刻な番組は敬遠されます。それは人の心として良く分かることです。人は誰も笑って楽しく暮らしたいものです。深刻になるのは実生活だけでたくさんです。現実の世界では苦しいことが多くあります。あれもこれもと思い悩むのは今の生活だけでたくさんだ、せめて、テレビの中では、楽しいことを見たり聞いたりしたい、と思うのが人情なのでしょう。

しかし、悲しみを見つめるところから得られるものも大きいように思います。この事件では、母親は何度も海に潜り、沈んだ車から子どもを救い出そうとしました。また、父親は妻から受け取った子ども両手に抱え立ち泳ぎで支えていました。このような話を聞くと、子を思う親の気持ち、愛情、命の大切さ、について考えさせられます。

裁判では、妻のかおりさんの調書も読み上げられました。(以下調書より引用)車の転落後、4度にわたって海に潜り、「『お願い、お母さんの手に触って』と願いながら車内のあちこちを手で探り続けた。」長男を助けられずに車が見えなくなり、救い上げた2児を海上で抱える哲央さんも沈みかけた。「頑張って。生きて、生きるのよ。」と励まし救助を待った。

人間とは不思議な生き物で、ある一面だけを見ているとその本当の価値が次第に分からなくなるといふ面を持っています。生きていくことのありがたさ、家族がそこで今日も健康に元気で生きていくことの幸せ、それを次第に意識しなくなります。平和が続くと次第に平和の尊さが忘れられていくのと似ています。

簡単に自らの命を絶つ若者を見ると、「あなたは、どんな思いであなたの親があなたを育てたのか、考えたことがありますか。」ということばを投げかけたくくなります。

私たちは、辛(つら)いことから目を背(そむ)け、楽しいこと、面白いものだけを見ようとしています。しかし、そのことにより本当の幸せが見えなくなっている面があるのかもしれない。悲しい事件、悲しい事実を見つめることは苦しいことです。でもそこから見えてくるものがある、そんなことを考えさせられた事件でした。

家族愛、命の大切さ、交通事故の怖さ、飲酒運転を憎む気持ち、色々なことを考えさせられた事件でした。あなたはこの事件から何を感じ取りましたか。